

1. 2022年1月～12月の気象概況

1-1 東海地方の天候の特徴

平均気温

1月、2月、12月は寒気の影響を受けて月平均気温は低くなりましたが、3月以降、平年並みとなった5月と10月を除き、暖かい空気の影響により高いまたはかなり高くなりました。特に11月は寒気の影響が弱く、低気圧の前面で南から暖かい空気が流れ込んだ時期もあったため、統計開始（1946年）以来第1位タイの高温となりました。

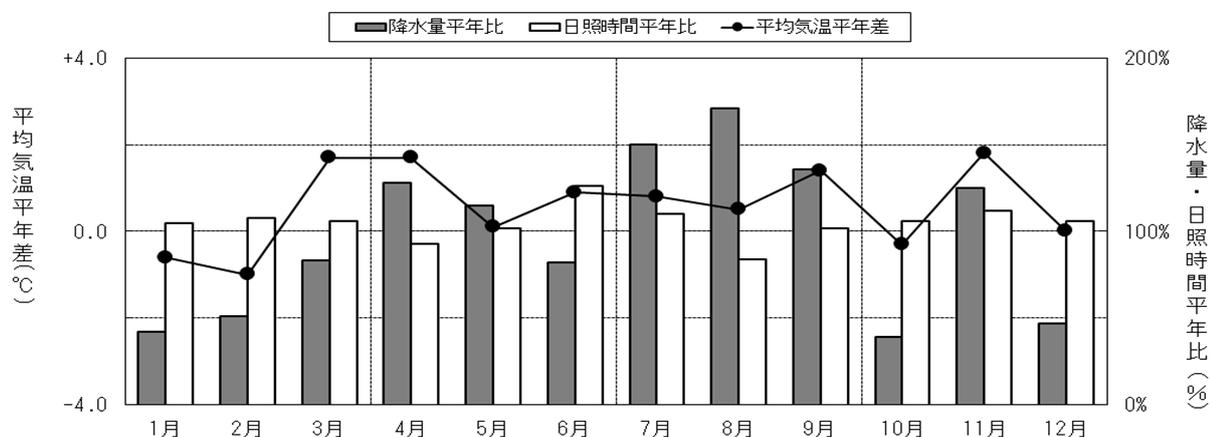
降水量

冬型の気圧配置となりやすかった1月、2月、12月と高気圧に覆われて晴れた日が多かった6月と低気圧や前線の影響を受けにくかった10月は、月降水量は少なくなりました。その他は3月を除き低気圧や前線、湿った空気の影響をうけて多くなりました。特に8月は台風が静岡県を通過し大雨となるなど、かなり多くなりました。

日照時間

年を通して月間日照時間は平年並の月が多くなりました。6月、11月、12月は晴れた日が多く、かなり多いまたは多くなりました。また、8月は前線や湿った空気、台風の影響を受けて曇りや雨の日が多かったため、少なくなりました。

※平均気温、降水量、日照時間については、東海地方平均の特徴を記述しました。東海地方平均とは、東海地方にある気象官署及び特別地域気象観測所（14地点）の平年差・比を平均したものです。



1-2 月別の東海地方の天候

1月

冬型の気圧配置や高気圧に覆われて晴れた日が多く、岐阜県山間部では曇りや雪の日が多くなりました。上旬から中旬にかけて寒気が入りやすく、13日から14日にかけて強い寒気が流れ込んだため岐阜県山間部を中心に、平野部でも大雪となった所がありました。このため月平均気温は低くなりました。また、低気圧の影響を受けた日が少なかったため月降水量は少なくなりました。

2月

中旬を中心に数日の周期で低気圧が通過し雨や雪の降った日もありましたが、月を通して冬型の

気圧配置や高気圧に覆われて晴れた日が多く、岐阜県山間部では曇りや雪の日が多くなりました。強い寒気の流れ込んだ時期があり月平均気温は低くなりました。また、月降水量は少なくなりました。

3月

上旬は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。中旬以降は高気圧と低気圧が交互に通過し天気は数日の周期で変化しました。暖かい空気の影響を受けやすく月平均気温はかなり高くなりました。特に中旬は南から暖かい空気が流れ込んだ日が多く、旬平均気温は統計開始（1946年）以来1位の高温となりました。

4月

月の前半は、前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日もありましたが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。後半は数日の周期で天気が変わり、下旬を中心に前線や低気圧の影響を受けて雨の日が多くなったため、月降水量は多くなりました。また、月を通して暖かい空気が流れ込んだ日が多く、月平均気温はかなり高くなりました。

5月

上旬と下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多く、中旬は低気圧や前線が本州南岸を通過しやすく、曇りや雨の日が多くなりました。また、中旬と下旬には本州南岸を東進した低気圧や湿った空気の影響で大雨となった所がありました。このため月降水量は多くなりました。

6月

中旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなりましたが、上旬と下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、月間日照時間はかなり多くなり月降水量は少なくなりました。また、上旬の後半から中旬の前半は冷たく湿った空気の影響を受けましたが、上旬の前半と中旬の後半以降は南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、月平均気温はかなり高くなりました。

7月

上旬のはじめや下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、低気圧や前線、上空の寒気、暖かく湿った空気の影響を受けやすかったため、まとまった雨が降り大雨となった日もありました。このため、月降水量は多くなりました。また、上旬や下旬の後半を中心に暖かい空気に覆われやすかったため、月平均気温は高くなりました。

8月

月を通して、前線や湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなりました。また、中旬には台風第8号の影響でまとまった雨が降りました。このため、月降水量がかなり多く、月間日照時間は少なくなりました。上旬を中心に太平洋高気圧に覆われて晴れた日があり、その後も暖かい空気に覆われたため月平均気温は高くなりました。

9月

月を通して、前線や湿った空気、台風の影響で曇りや雨の日が多くなりました。下旬の前半には、台風第15号の影響で静岡県や愛知県を中心に大雨となりました。このため月降水量は多くなりました。また、中旬の旬平均気温はかなり高く、統計開始（1946年）以来、第1位の高温となるなど、暖かい空気に覆われやすかったため月平均気温はかなり高くなりました。

10月

上旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなりましたが、中旬と下旬は高気圧に覆われた

日が多く、低気圧や前線の影響を受けにくかったため、月降水量は少なくなりました。また、暖かい空気に覆われた時期もありましたが、短い周期で寒気の影響を受けたため、月を通して気温の変動が大きくなりました。

11月

上旬から中旬にかけて高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、月間日照時間は多くなりました。下旬は低気圧や前線の影響をたびたび受けてまとまった雨が降ったため、月降水量は多くなりました。また、中旬以降は寒気の影響が弱く、南から暖かい空気が流れ込んだ時期もあったため、月平均気温はかなり高く統計開始（1946年）以来第1位タイの高温となりました。

12月

月の前半は高気圧に覆われた日が多く、後半は冬型の気圧配置となった日が多くなり、中旬の中頃から下旬の前半にかけて強い寒気が流れ込みました。平野部では晴れた日が多く、岐阜県山間部では曇りや雪または雨の日が多くなりました。このため、月平均気温は低くなり、月間日照時間は多くなりました。また、低気圧や前線の影響を受けにくかったため月降水量は少なくなりました。

1-3 梅雨

梅雨入り： 6月14日ごろ 「かなり遅い」 （平年： 6月6日ごろ）

梅雨明け： 7月23日ごろ 「平年並」 （平年： 7月19日ごろ）

梅雨期間を含むこの2か月の降水量は平年を下回った所もありますが、静岡県を中心に平年を上回り、東海地方平均の平年比は116%で「多い」となりました。

梅雨の時期（6月～7月）の東海地方の降水量（mm）及び平年比（%）

地点名	実況	平年	平年比
高山	369.0	431.3	86
岐阜	594.5	494.6	120
名古屋	484.0	397.9	122
上野	298.0	388.6	77
津	343.5	375.7	91
伊良湖	330.5	339.2	97
浜松	843.5	433.8	194
御前崎	849.5	478.6	177
静岡	775.5	565.5	137
三島	349.0	436.1	80
尾鷲	626.0	841.8	74
石廊崎	652.5	440.1	148
網代	474.0	494.0	96
四日市	576.5	457.0	126
東海地方平均			116

※「高い（多い）」・「平年並」・「低い（少ない）」の範囲は、平年値の統計期間（1991-2020年）の値から求めています。30年間のデータ（たとえば1月の月平均気温であれば1991年1月、1992年1月、…、2020年1月の30個）の中で、高い（多い）方からおおよそ10番目までのデータの値の範囲を「高い（多い）」、11～20番目まで値の範囲を「平年並」、21番目以降の値の範囲を「低い（少ない）」としています。また、高い（多い）方から3番目までの値の範囲を「かなり高い（多い）」、28番目の値以降の範囲を「かなり低い（少ない）」としています。梅雨の時期の「早い」や「遅い」の範囲もこれに準じています。

1-4 台風

令和4年の台風発生数は25個となり、上陸数と東海地方への接近数はともに3個で、いずれも平年と同程度となりました。

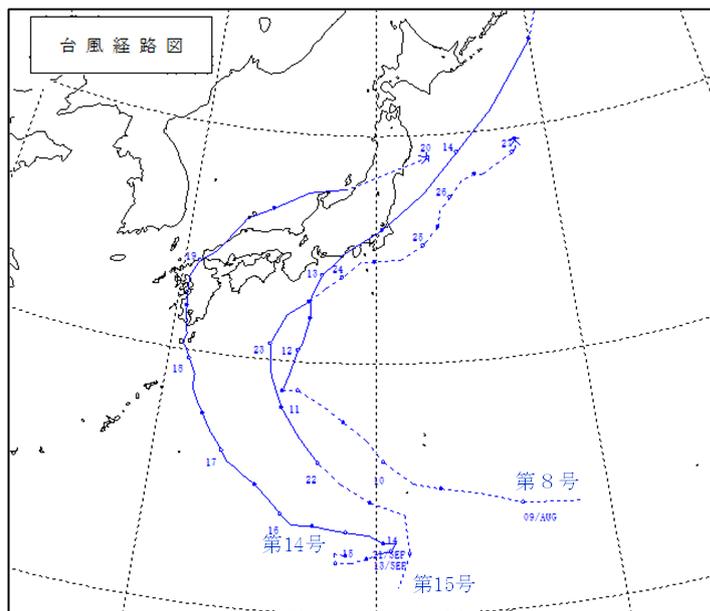
東海地方に接近した台風は第8号、第14号、第15号で、第8号は静岡県御前崎付近を通過し、伊豆半島に上陸しました。台風第15号は四国沖から北東に進み東海道沖で温帯低気圧に変わりました。

※東海地方に接近した台風とは、その中心が東海地方のいずれかの気象官署及び特別地域気象観測所（富士山を含めた15地点）から300km以内に入った台風を指します。

台風発生数・上陸数及び東海地方への接近数（確定値）

月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
令和4年	発生数	0	0	0	2	0	2	2	5	7	5	1	1	25
	上陸数	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	3
	東海接近数	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
平年	発生数	0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	1.0	25.1
	上陸数	-	-	-	-	0.0	0.2	0.6	0.9	1.0	0.3	-	-	3.0
	東海接近数	-	-	-	-	0.1	0.2	0.6	0.8	1.2	0.7	-	-	3.5

東海地方に接近した台風の経路図



第8号（8月に接近）、台風第14号・第15号（共に9月に接近）
 実線は台風の期間、点線は熱帯低気圧または温帯低気圧の期間